

Euro Indicators

Euro Weekly (11/9～11/13)

発表日：2009年11月16日(月)

～10-12月期入り後も製造業活動の拡大持続を示唆～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 田中 理

03-5221-4527

○11/9～11/13に発表された主な経済指標

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
11/9 (月)	(独) 9月鉱工業生産 (前月比)	+2.7%	+1.0%	+1.8%
11/10 (火)	(独) 10月消費者物価 (前年比、確定値)	+0.0%	+0.0%	+0.0%
	(独) 11月ZEW景況感調査 (現況)	▲65.6	▲70.0	▲72.2
	(独) 11月ZEW景況感調査 (先行き)	51.1	55.0	56.0
	(仏) 9月鉱工業生産 (前月比)	▲1.5%	+0.5%	+2.8%
	(伊) 9月鉱工業生産 (前月比)	▲5.3%	▲4.0%	+5.8%
	(英) 10月RICS住宅価格 (前年比)	+34%	+28%	+21%
11/11 (水)	(英) 10月求職手当受給率	5.1%	5.1%	5.0%
	(英) 中銀物価レポート			
11/12 (木)	(ユーロ) 9月鉱工業生産 (前月比)	+0.3%	+0.5%	+1.2%
	(ユーロ) ECB月報			
11/13 (金)	(ユーロ) 7-9月期GDP (前期比)	+0.4%	+0.5%	▲0.2%
	(独) 7-9月期GDP (前期比)	+0.7%	+0.8%	+0.4%
	(仏) 7-9月期GDP (前期比)	+0.3%	+0.6%	+0.3%
	(仏) 10月消費者物価 (前年比)	▲0.2%	▲0.2%	▲0.5%
	(伊) 7-9月期GDP (前期比)	+0.6%	+0.8%	▲0.5%

(注) コンセンサスはBloomberg調査

○ユーロ圏：7-9月期GDPは6四半期振りのプラス成長

<ユーロ圏：7-9月期GDP速報>

11月13日に発表された7-9月期のユーロ圏の実質GDP成長率(速報値)は前期比+0.4%と、6四半期振りのプラス成長に転じた(前期は同▲0.2%)。国別では、既に4-6月期にプラス転換していたドイツ(同+0.7%)、フランス(同+0.3%)、ポルトガル(同+0.9%)、スロバキア(同+1.6%)が引き続きプラス成長となったほか、ベルギー(同+0.5%)、イタリア(同+0.6%)、オランダ(同+0.4%)、オーストリア(同+0.9%)が新たにマイナス成長から脱した。一方、ギリシャ(同▲0.3%)、スペイン(同▲0.3%)、キプロス(同▲1.4%)ではマイナス成長が続いている。

なお、その他の加盟国は速報段階で未公表。需要項目別の詳細は12月3日に発表予定。

<ユーロ圏：9月鉱工業生産>

12日に発表された9月のユーロ圏の鉱工業生産(建設業を除く)は前月比+0.2%と5ヶ月連続の増産となった。7-9月期平均では前期比+2.2%と2008年1-3月期以来のプラスを記録。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

国別では、スペイン、フィンランドを除いた加盟国が前期比ベースで増産となった（ただし、ベルギー、キプロス、ルクセンブルク、スロバキアは9月値が未公表のため除く）。GDP統計でも確認された通り、中核国で先行してきた景気回復が周辺国にも広がりを見せている。

財別では、中間財（同+3.4%）、資本財（同+0.5%）、非耐久消費財（同+0.4%）が前期比で増産の一方、耐久消費財（同▲1.2%）が6四半期連続の減産となった。資本財生産が小幅ながら増産に転じたことにより、設備投資の一方的な落ち込みに歯止めが掛かってきたことが示唆されよう。

<ドイツ：11月ZEW景況感調査>

10-12月期入り後の景気回復の持続性を占う材料として、11月のドイツZEW景況感調査が10日に発表された。経済の現況判断（足元の景況が「良い」－「悪い」）は▲65.6とマイナス圏にあるものの、前月（▲72.2）からマイナス幅が縮小。一方、先行きの景況感（今後6ヶ月の景況を「楽観」－「悲観」）は51.1と「楽観」が「悲観」を上回るものの、9月（57.7）をピークに2ヶ月連続で低下し、足元でやや慎重姿勢に転じている。

同調査は約350人の金融市場参加者に対するサーベイで、速報性に優れ、注目度の高いドイツIfo製造業景況感調査とも連動性が高い。過去の両者の単月の方向性（前月から改善したか、悪化したか）を比較すると、現況判断については6割超、先行き判断については7割弱の確率で符号条件が合致している。

ZEWの結果から判断すると、今月24日に発表される11月のIfo製造業景況感指数は前月（91.9）とほぼ同水準になると見込まれる。その場合、7-9月期平均の89.7から一段と改善し、ドイツの製造業活動が10-12月期入り後も拡大基調を維持していることが示唆されよう。

○英国：雇用・所得環境の悪化ペースは緩和

<英国：9月平均所得指数>

11月11日に発表された英国の労働市場統計によれば、7-9月期の平均所得指数（ボーナスを除くベース）は前年同期比+1.8%と、6-8月期の同+1.9%から伸び率が鈍化。同項目の調査が開始された2001年以降で最も低い伸び率となった。但し、9月単月でみれば前年同月比+1.8%と、前2ヶ月の同+1.7%をボトムに改善、伸び率の縮小に歯止めが掛かってきた。

<英国：10月求職手当受給率>

同時に発表された10月の求職手当受給率（英国では労働需給を表す代表指標でILO基準の失業率よりも注目度が高い）は5.1%と前月（5.0%）から一段と上昇した。依然として上昇基調が続いているものの、本年前半にかけての急速な上昇ペースには歯止めが掛かってきた。

雇用・所得環境面からの景気への下押し圧力は徐々に弱まりつつあることが確認される。

以上